

[掲載紙] 朝日新聞「上州経済風信」

[掲載日] 2012年11月15日

[テーマ] 太田の自動車産業—工場立地 プラス効果も—

先日、太田市を訪ねた。中島記念公園や新田神社から利根川や渡良瀬川が流れる広大な関東平野を眺め、群馬の豊かな地盤と地理的な利便性を実感した。

太田は、群馬の歴史や変遷をたどれる街だ。天神山などの古墳、平安末期にひらかれた荘園・新田荘、戦国時代に難攻不落とされた金山城、江戸時代の日光例幣使道などの史跡が残る。

上毛かるたにも、ゆかりの偉人「歴史に名高い新田義貞」、大光院の高名な上人を詠んだ「太田金山子育呑龍」がある。



現在の太田市は、大正時代に中島知久平が興した中島飛行機の発展によって、富士重工業をはじめ自動車産業が盛んになった全国有数の工業都市である。

県内製造品出荷額の3割強を自動車中心の輸送用機械が占め、その半分以上が太田市で製造・出荷されている。自動車産業は裾野が広く、関連業界に及ぼす影響が大きい。太田市の人口や世帯数が趨勢として増えているのにも、自動車産業の発展が寄与している。



最近目立つのは、県内工場立地のプラス効果だ。経済産業省や県が公表した2012年上期の「工場立地動向調査」によると、県内の工場立地件数は31件と全国第2位（県外企業の立地件数は16件で第1位）、立地面積は78.5㊦と第1位だった。

#### ■ 県内の工場立地件数・面積の推移

	2010年	2011年	2012年上期
立地件数	50件①	33件⑧	31件②
うち太田・館林地区	13件①	14件①	10件①
うち輸送用機械	8件①	8件①	6件①
立地面積	41.0㊦⑤	25.8㊦⑩	78.5㊦①

※ ○の数字は順位。立地件数、立地面積は全国で、それ以外は県内。

経済産業省「平成24年上期（1～6月）における工場立地動向調査について」、群馬県「平成24年上期（1～6月）工場立地動向調査概況」から

地区別では太田・館林地区、業種別では輸送用機械が最も多い。今後、用地を取得した企業が工場を建設することで県内設備投資の押し上げも期待される。



県内の景況は、海外経済の減速が強まる中、電気機械や一般機械、化学などの素材関連で、弱い動きが広がる。それでも全国平均よりは良好で、辛うじて持ち直しの動きが維持されているのは、好調な自動車産業がカバーしているからだ。

ただ、国内の大手自動車メーカーは、海外経済の減速で生産や輸出面にマイナスの影響を受けており、県内企業にも少なからず影響が出てきている。自動車産業はいつまでも安泰、と楽観するのは禁物だろう。

県内経済は、主役となる産業の変遷を遂げながら、全体としてバランスのとれた産業構造を保ってきた。今後は、自動車産業のさらなる発展に加え、新たな成長分野を育成することが必要だ。群馬には、それをやり遂げてきた歴史がある。工場を新設する県外からの息吹にも期待し、県経済の基盤強化に向けた前向きなチャレンジを望みたい。

日本銀行前橋支店長  
相良 雅幸